

業務取得の謄本、住民票

無許可で持ち帰る

市へ
岡職員処分

岡山市財政局の主任男性50代が、業務で6年前に取得した市民の戸籍謄本、住民票の写し各一通を許可なく自宅に持ち帰り、放置していたことが18日、関係者への取材で分かった。市は、地方公務員法が定める信用

失墜行為などに当たるとして処分を検討している。関係者によると、主任が戸籍謄本、住民票

の写しを取得したのは2008年の住宅課在籍時。宅地造成の分譲事業を担当し、市有地の隣接地について調べ

たか覚えていないし、家にあつたという認識

個人情報の適正管理を定めた市個人情報保護条例に抵触する可能性が高いが、3年の公

訴時効が過ぎているとみられる。市総務局の岸堅士局長は「事実関係を調べている段階であり、事実であれば厳正に対処する」としている。

（岡市笠岡）は18日、市から委託されている予防接種で、有効期限が切れた3種混合ワクチン（ジフテリア、百日せき、破傷風）を市内の1歳男児に誤って接種したと発表した。これまでのところ、健康異常はないという。病院によると、有効期限10月9日のワクチンを11月5日に接種。他に接種した人がいない。

県警ご当地ネーミング入賞者

福永さん(津山)ら3人表彰



最優秀作に選ばれ、表彰状を受け取る福永さん

根絶！ 特殊詐欺

高齢者を電話で唆して現金をだまし取る特殊詐欺を防ぐと、県警などが行った「ご当地ネーミング」の公募で、最優秀作の「いけり」を送るな渡すな詐欺市、「あぶねーよ家族

「あぶねーよ家族」を考えた津山市、会社員福永寿恵さん(65)と、優秀作に選ばれた2人に18日、知事賞が贈られた。

県庁で表彰式があり、優秀作となった「いけり」危ねえ電話詐欺の高校2年難波由里恵さん(17)と岡山

に内緒詐欺の銀行員川広克己さん(56)も出席。伊原木隆太知事が「特殊詐欺根絶に向け、広く周知したい」と述べ、一人一人に賞状を手渡した。

最優秀、優秀の3作品は今後、防犯教室や啓発で活用する。福永さんは「被害を一件でも少なくするきっかけになれば」と話した。

県警によると、今年の特種詐欺被害は11月末現在、1335件約7億6330万円。17日には偽のキャッシュカードを送り付け、使用中のカードと暗証番号を送り返すよう要求する新種の詐欺も確認されており、県警は注意を呼び掛けている。

NPOと葬祭業者が連携

被害者遺族ら支えよう

NPO法人「おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ」(事務局・岡山市北区)が葬祭業者と連携し、家族を亡くした遺族らを精神面から支える「グリーンケア」の普及に取り組んでいる。講演会などを通じて深い悲しみ(グリーフ)に寄り添う重要性を訴え、社会全体で立ち直りをサポートする態勢づくりを目指している。

ファミリーズは2005年の設立以来、犯罪や事故で家族らを支えてきた。「人の死」に接する総合葬祭業のうえ(倉敷市二日市)がその活動に共感。12年、両者で「グリーンサポートプロジェクトおかやま」と名付

11月下旬、岡山市で開いた勉強会には夫を病気で亡くしたという倉敷市の60代女性が出席。「周囲から掛けられる『かわいそう』という言葉は、上から見られているようでつらく感じる」などと語り、ファミリーズのメンバー、いのうえ社員が耳を傾けていた。

ファミリーズの川崎政宏理事長は「ケアは長期にわたる地域の理解が欠かせず、賛同者を増やしたい」、いのうえの賛田淳一広報企画室長は「支援の方策を学ぶ講座の創設も考えており、まずは取り組みを知ってほしい」と呼び掛けている。

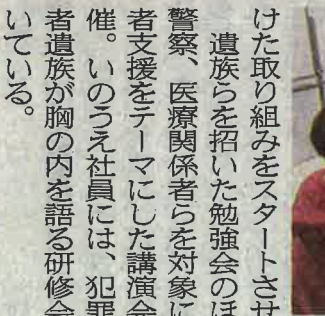
遺族からの相談は毎週土曜日午前10時午後4時、グリーンサポートプロジェクトおかやま(086-245-7831)。(小川正貴)

けた取り組みをスタートさせた。遺族らを招いた勉強会のほか、警察、医療関係者を対象に被害者支援をテーマにした講演会を開催。いのうえ社員には、犯罪被害者遺族が胸の内を語る研修会も開いている。

寄る添う態勢構築へ
勉強会や講演会

グリーフケアについて意見交換する川崎理事長(左奥)ら

（小川正貴）



グリーフケアについて意見交換する川崎理事長(左奥)ら

（小川正貴）